

メディカル・プロフェッショナルリズムⅡ

科目責任者 種 市 洋
学年・学期 2 学年・3 学期

I. 前 文

メディカル・プロフェッショナルリズムとは、「人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたりながら、医師としての道を究めていくこと」とされています。すなわち、医師には社会から信頼され、思いやりを持って他者に接する態度などの医師に相応しい資質や能力が求められており、プロフェッショナルリズムはその最上位として医学教育モデル・コア・カリキュラムにも挙げられています。そのため、本学は6年一貫の「メディカル・プロフェッショナルリズム（D-Mep）」を令和5年度に開設しました。順次性を持って計画されたD-Mepでは、単位認定要件として「良き医師となるには」というレポート課題を各学年での単元終了後に提出し、医療に対する考え方の軌跡を履修者が振り返ることも目的としています。

D-Mep Ⅱではまず医師のキャリア形成について、問題基盤型学習（problem-based learning；PBL）形式を通じて能動的に学修します。12月には看護学生と"チーム医療合同演習"を行い、二律背反する事例を通じて「患者中心の医療とは何か?」「チーム医療はなぜ必要なのか?」を考えます。初回の"リーダーシップと協働"で学んだことと共に、演習を通じて医療において協働する職種役割、信頼関係を構築する上で必要なコミュニケーション能力や協調性の大切さも効果的に学びます。新年後半には"研究倫理"を学修します。すべての医療者は科学者としての側面を有し、常に科学的探究心を以て日々の診療に取り組み医学を追究しなければなりません。しかし、科学研究には様々な倫理問題が伴います。研究対象となるヒトや実験動物の生命を尊重し保護するための倫理規定にはどのようなものがあるか。ゲノム医療など新しい臨床研究にはどのような倫理的配慮が求められるか。研究の安全性はどのように保たれるべきか。研究データの品質管理とは何か。これらを学修することで、医学における研究倫理の重要性を身につけます。

II. 担当教員

< D-Mep 概論Ⅱ >

医学部長／整形外科学	主任教授	種 市 洋
肝・胆・脾外科	学内講師	白 木 孝 之

< 医師のキャリア形成Ⅱ（PBL－Ⅱ） >

研究連携・支援センター／共同利用室室	准教授	小 嶋 英 史
	各チューター・運営担当教員	

< チーム医療（医看合同演習） >

肝・胆・脾外科	学内講師	白 木 孝 之
基盤・機能看護学	講 師	齋 藤 道 子
	各ファシリテーター担当教員	

< 人を対象とする医学研究倫理 >

教育支援センター／研究倫理支援室	講 師	上 杉 奈 々
------------------	-----	---------

< 動物実験の研究倫理 >

実験動物センター	教 授	新センター長
実験動物センター	准教授	藤ノ木 政 勝
実験動物センター	助 教	今 弘 枝

＜研究データの品質管理術＞

先端医科学研究センター	准教授	井上健一
先端医科学研究センター	准教授	小尾正太郎
先端医科学研究センター	講師	岸本聡子

＜研究の安全性＞

教務部長／病理学	主任教授	矢澤卓也
----------	------	------

＜コーディネーター＞

解剖学	准教授	上田祐司
-----	-----	------

Ⅲ. 一般学習目標

- (1) プロフェッショナリズムの視点から、医学生に求められる態度について学ぶ。
- (2) コミュニケーションの視点から、人としての信頼や思いやりを形成する行動の基礎について学ぶ。
- (3) ヘルシンキ宣言と同意の取得について理解する。
- (4) 医学における動物実験の意義と倫理について理解する。
- (5) 研究データの品質管理について理解する。
- (6) 能動的学修能力、すなわち問題抽出能力と自己学修能力を培う。

Ⅳ. 学修の到達目標

- (1) 社会から信頼を得る上で必要なことを常に考え行動することができる。
- (2) 品格と礼儀をもって、他者を適切に理解し、思いやりをもって接することができる。
- (3) 医療における倫理の重要性を理解し、多様な価値を理解した上で自身の見解を形成し述べることができる。
- (4) 法令遵守ならびに人権を尊重し、医学生として正しく行動することができる。
- (5) 自他の役割を踏まえ、協働する職種で信頼関係を構築し、互いの知識・技術を活かし合い、職種としての役割を全うできる。

Ⅴ. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
 2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
 6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブラーニング
1	10	24	金	2	医師のキャリア形成Ⅱ（PBL－Ⅱ）①	テューター 担当教員	2, 3
2		24	金	3	医師のキャリア形成Ⅱ（PBL－Ⅱ）②	テューター 担当教員	2, 3, 5
3	11	7	金	2	医師のキャリア形成Ⅱ（PBL－Ⅱ）③	テューター 担当教員	2, 3, 5
4		7	金	3	医師のキャリア形成Ⅱ（PBL－Ⅱ）④	テューター 担当教員	2, 3, 5
5		14	金	2	医師のキャリア形成Ⅱ（PBL－Ⅱ）⑤	テューター 担当教員	2, 3, 5
6		14	金	3	医師のキャリア形成Ⅱ（PBL－Ⅱ）⑥	テューター 担当教員	2, 3, 5
7		21	金	2	医師のキャリア形成Ⅱ（PBL－Ⅱ）⑦	テューター 担当教員	2, 3, 5

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
8	11	21	金	3	医師のキャリア形成Ⅱ（PBL－Ⅱ）⑧	テューター 担当教員	2, 3, 5
9		28	金	2	医師のキャリア形成Ⅱ（PBL－Ⅱ）⑨	テューター 担当教員	2, 3, 5
10		28	金	3	医師のキャリア形成Ⅱ（PBL－Ⅱ）⑩	テューター 担当教員	2, 3, 5
11	12	5	金	2	医師のキャリア形成Ⅱ（PBL－Ⅱ）⑪ 個人発表	テューター 担当教員	2, 5
12		5	金	3	医師のキャリア形成Ⅱ（PBL－Ⅱ）⑫ 個人発表	テューター 担当教員	2, 5
13		9	火	2	D-Mep概論Ⅱ ①：リーダーシップと協働	種 市 洋	1
14		9	火	3	D-Mep概論Ⅱ ②：チーム医療論	白 木 孝 之	1
15		10	水	1	チーム医療（医看合同演習）	白 木 孝 之 齊 藤 道 子 ファシリテーター 担当教員	1
16		10	水	2	チーム医療（医看合同演習）	白 木 孝 之 齊 藤 道 子 ファシリテーター 担当教員	3
17		10	水	3	チーム医療（医看合同演習）	白 木 孝 之 齊 藤 道 子 ファシリテーター 担当教員	5
18	1	5	月	1	人を対象とする医学研究倫理 ①： ヘルシンキ宣言，ベルモントレポート，ヒトを対象とする生命科学・医学系研究に対する倫理指針	上 杉 奈 々	1
19		5	月	2	人を対象とする医学研究倫理 ②： 倫理審査委員会，インフォームドコンセント，被験者保護	上 杉 奈 々	3
20		5	月	3	人を対象とする医学研究倫理 ③： 演習	上 杉 奈 々	3
21		5	月	4	動物実験の研究倫理 ①： 医学研究における動物実験の意義	実験動物センター長 藤ノ木 政 勝 今 弘 枝	1
22		5	月	5	動物実験の研究倫理 ②： 本学における動物実験の実施	実験動物センター長 藤ノ木 政 勝 今 弘 枝	1
23		5	月	6	動物実験の研究倫理 ③： 動物の倫理，愛護，福祉	実験動物センター長 藤ノ木 政 勝 今 弘 枝	1
24		6	火	1	研究データの品質管理術 ①： 実験データの扱い方，ヒストグラムと正規分布 Excel・SPSS演習	井 上 健 一 小 尾 正太郎 岸 本 聡 子	1
25		6	火	2	研究データの品質管理術 ②： ノンパラメトリックデータの群間比較，3群以上の比較 Excel・SPSS演習	井 上 健 一 小 尾 正太郎 岸 本 聡 子	4
26		6	火	3	研究データの品質管理術 ③： 2変量データの散布図による視覚化，相関と回帰 Excel・SPSS演習	井 上 健 一 小 尾 正太郎 岸 本 聡 子	4
27		7	水	1	研究の安全性 ①： バイオセーフティとバイオセキュリティの考え方，実験安全の基本，化学物質を使った実験	矢 澤 卓 也	1
28		7	水	2	研究の安全性 ②： 実験室関連感染とバイオハザードのリスク評価，バイオテロリズム	矢 澤 卓 也	4

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
29	1	7	水	3	研究の安全性 ③： 演習	矢 澤 卓 也	4
30		9	金	1	D-Mep概論II ③：良き医師となるには	種 市 洋	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

【単位認定要件1】

講義・演習に対応するeAPRIN（イー・エイプリン, Association for the promotion of Research Integrity）のクイズを期日までに受講する。各単元の修了を単位取得の条件とする。

【単位認定要件2】

第30回（最終回：D-Mep概論II）にて課す「良き医師となるには」のレポートの提出をもって単位取得要件とする。このレポートでは、この段階で自分自身が考える医師像とそれを達成するために必要な3年次に向けた自己の目標を設定し、e-ポートフォリオに記録するものとする。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

1. 大生定義, プロフェッショナリズム総論, 京府医大誌 120（6）, 395-402, 2011.

URL <http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/jkpum/pdf/120/120-6/oobu.pdf>

2. eAPRIN（イー・エイプリン, Association for the promotion of Research Integrity）

URL <https://edu.aprin.or.jp/login/index.php?lang=ja>

VIII. 質問への対応方法

各講義の担当教員に直接、あるいはコーディネーターを介してコンタクトし、事前にアポイントメントを取ること。対応時間は平日の9：00-17：00を基本とする。教員のメールアドレスは別途示す。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各項目のフィードバックの方法については，講義時に担当教員より説明します。また，単位認定要件となるレポート課題である「良き医師となるには」は学生自身の学修と成長の記録としてe-ポートフォリオに記録するので，卒業時まで各自で活用してください。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習，事後学習については各担当教員より説明する。

XII. コアカリ記号・番号

PR：プロフェッショナリズム

PR-05：医の倫理

PR-05-01：医の倫理

PR-01：信頼

PR-01-01：誠実さ

PR-01-02：省察

PR-02：思いやり

PR-02-02：他者理解と自己理解

GE：総合的に患者・生活者をみる姿勢

GE-01：全人的な視点とアプローチ

GE-01-03：患者中心の医療

IP：多職種連携能力

IP-01：連携の基盤

IP-01-01：患者中心の保健医療福祉

IP-01-02：職種間コミュニケーション

IP-02：協働実践

IP-02-04：他職種の理解

LL：生涯にわたって共に学ぶ姿勢

LL-01：生涯学習

LL-01-01：生涯学び続ける価値観を形成する

RE：科学的探求

RE-05：研究倫理

RE-05-01：適切な研究遂行

RE-05-02：対象者の保護